



MOVE THE WORLD FORWARD  MITSUBISHI
HEAVY
INDUSTRIES
GROUP

技術力で社会の変革をリードする

三菱重工グループのサステナビリティ経営

 三菱重工



会社概要

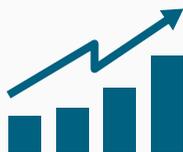
1884年の創立以来、三菱重工グループはものづくりとエンジニアリングのグローバルリーダーとして国内外のパートナーと共に世界中の人々の暮らしと社会に貢献しています。

売上

4兆6571億円

(売上収益 | 連結 / IFRS)

※2024年3月期

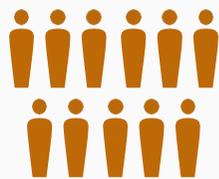


社員数

77,697人

(連結従業員数)

※2024年3月31日時点



グループ会社数

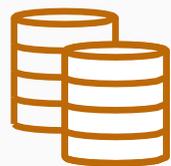
海外192社 国内65社

※2024年3月31日時点



創立年

1884年



資本金

2,656億円

※2024年3月31日時点



本社所在地

東京



再生可能エネルギー使用量

133GWh

※2023年度



社会貢献活動費

13.9億円

※2023年度

事業内容

長年培ってきた技術を生かし、陸、海、空、そして宇宙の幅広い分野で最適なソリューションを提供することで、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。

エナジードメイン



脱炭素社会の実現に向け、エネルギーと環境の両面から多様なソリューションを提案しています。

プラント・インフラドメイン



造船の技術で海事産業の発展に、環境装置や製鉄機械等で持続可能な循環型社会の構築に貢献します。

物流・冷熱・ ドライブシステムドメイン



フォークリフト、エアコン、ターボチャージャー、エンジンなど、日々の暮らしを支える製品を手掛けています。

原子力セグメント



大規模で安定的な電力を供給する、原子力プラントの設計・機器製作・建設を手掛けています。

GXセグメント



脱炭素バリューチェーンを構築するGX（Green Transformation）事業開発をはじめ、CO₂回収装置、交通システム、化学プラントなどのエンジニアリング事業を展開しています。

機械システムセグメント



料金収受システム、立体駐車場、食品包装機械、紙工機械などを設計・製作・建設し社会インフラを支えています。

防衛・宇宙セグメント

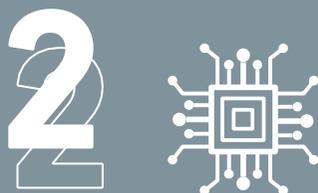


ロケット打上げ輸送サービスや各種防衛製品の開発・設計・製造を行っています。

民間機セグメント



世界有数の航空機メーカーに、主翼や胴体などのコンポーネントを供給しています。



AI・デジタル化による社会の変革

AI・デジタル化の最大限の活用を通じて、経済発展と社会的課題の解決を両立する社会（Society5.0）を実現させます。



脱炭素社会に向けたエネルギー課題の解決

2040年までに三菱重工グループの事業活動を脱炭素化し、2050年までに脱炭素化社会を実現するためエネルギーインフラ構築に貢献します。



サステナビリティ経営を実現するための5つのマテリアリティ

三菱重工グループは、サステナビリティ経営を実現するために取り組む5つの重要課題を設定しています。カーボンニュートラル社会の実現に向けた「エナジートランジション」や、人々の生活をより良い方向に変化させるデジタルトランスフォーメーションを通して、持続可能な社会の実現に貢献します。

。

安全・安心な社会の構築

これまでの実績と知見を応用し、柔軟かつ強靱で、省人化にも優れた社会システムを構築。安全・安心な社会の実現に寄与します。



コーポレートガバナンスの高度化

法令遵守や誠実・公平・公正な事業慣行を徹底するほか、経営に関する情報開示を実施し、公平性・透明性の担保も展開します。



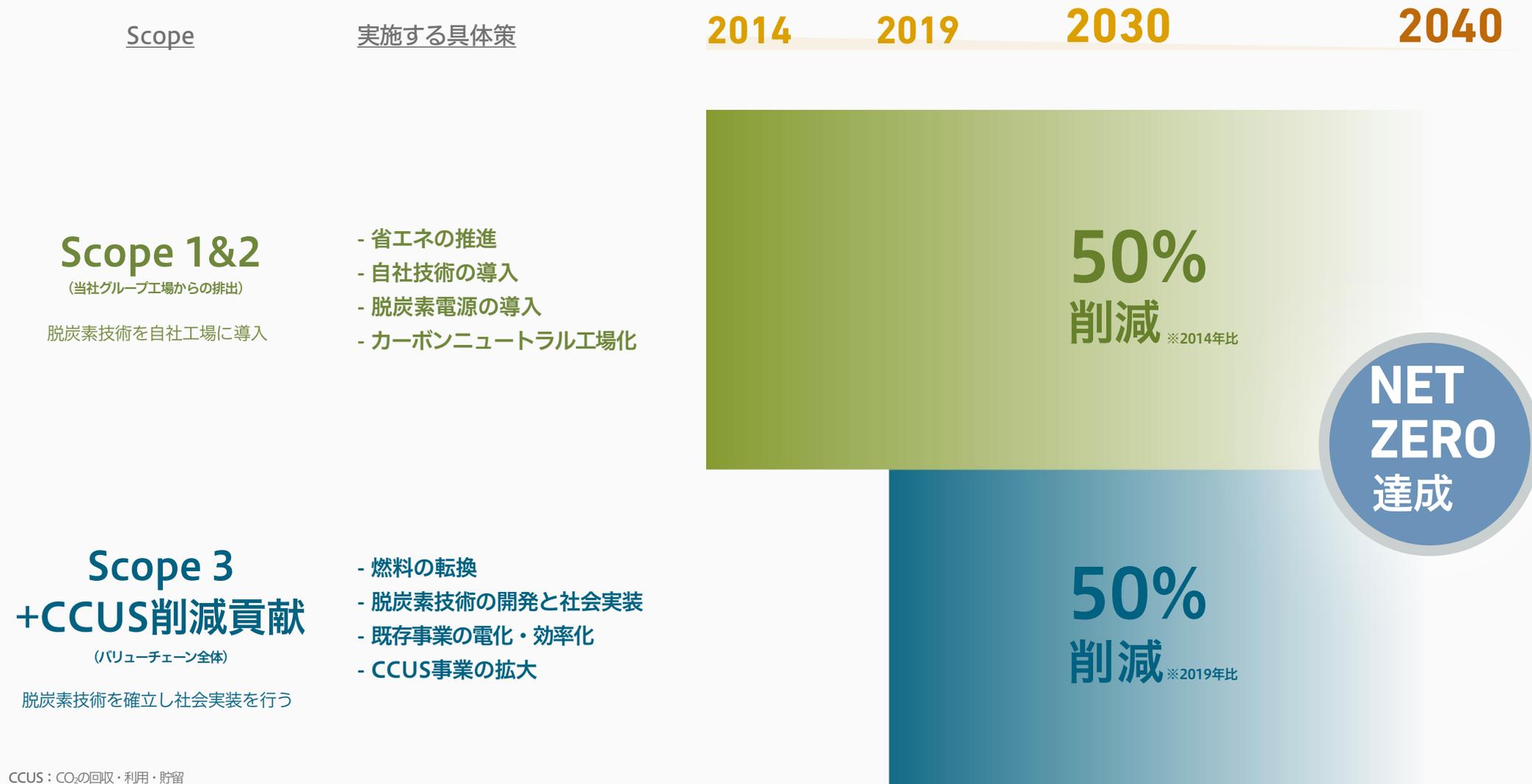
ダイバーシティ推進とエンゲージメントの向上

ダイバーシティと健康経営の推進を通じて、人材の成長と健康維持を支援。退職後も社会に貢献できる人材づくりを進めます。



マテリアリティ1への対応 MISSION NET ZERO 達成に向けて

三菱重工業グループは、エネルギー供給側で脱炭素化を目指す「エナジートランジション」と、エネルギー需要側で脱炭素・省エネ・省人化を実現する「社会インフラのスマート化」の2つを成長領域に決めました。さらに既存の事業の脱炭素化・電化・知能化を推進し、2040年のNet Zeroとカーボンニュートラル社会を実現します。

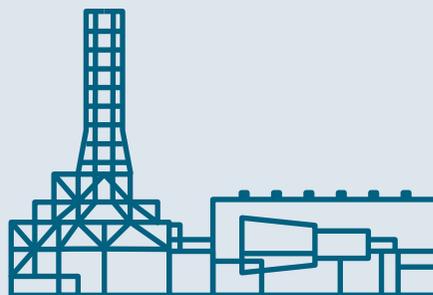


CCUS : CO₂の回収・利用・貯留

Scope 3: 算定基準はGHGプロトコルに基づく。ただし、CCUSで達成したCO₂削減量も三菱重工独自の指標として計上

三菱重工グループが取り組んでいること

カーボンニュートラル社会の実現に向けて、水素ガスタービンの開発・実証や、CO₂を回収し転換利用するCO₂エコシステム、カーボンフリーを実現するための水素製造事業、製品の自律化・知能化に取り組んでいます。



水素製造・水素発電の技術を実証

高砂水素パーク

水素ガスタービンの早期商用化に向け、ガスタービンの開発・製造拠点を置く高砂製作所に、水素製造から発電までの技術を一貫して検証できる世界初の設備「高砂水素パーク」を整備。関連設備を順次拡充し、2025年に大型ガスタービンで水素の30%混焼、中小型では100%専焼の製品を商用化する予定です。

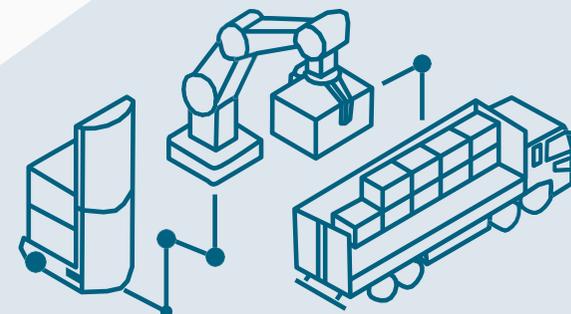
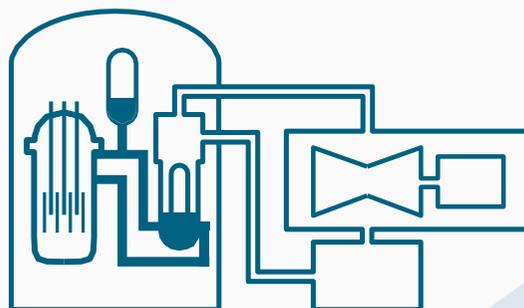
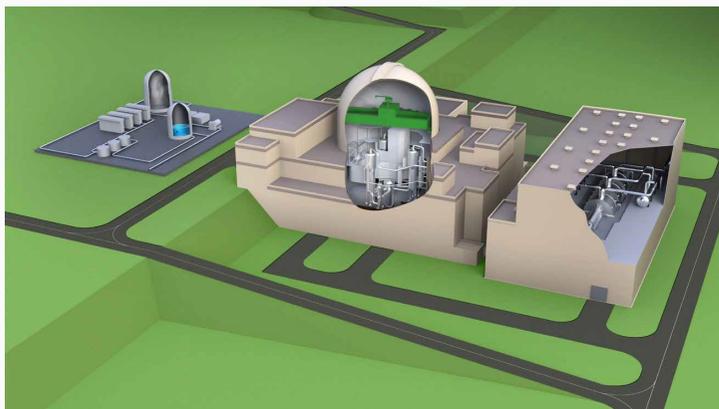
CO₂を回収し再利用

CCUS(CO₂の回収、転換利用、貯留)

CCUSで必要となるCO₂回収やCO₂輸送分野の当社の実績と技術力、およびCO₂の流通を繋げるCO₂のデジタルプラットフォームを活かしながら、当社グループでは「CO₂NTAIN(とる or とじこめる)」「CO₂NNECT(つなぐ)」「CO₂NVERT(いかす)」の3つのフレームワークで、CCUSバリューチェーンの構築とCO₂エコシステムの早期構築を目指します。



三菱重工業グループが取り組んでいること



安全性と出力調整機能を向上

原子力 革新軽水炉の開発

2030年代半ばの実用化を目指し、高い経済性に加え、革新技術の採用により世界最高水準の安全性を実現する革新軽水炉

(次世代軽水炉)を開発しています。

また、再生可能エネルギーの出力変動への対応の

ため、出力調整機能も強化しており、革新軽

水炉の実現によりカーボンニュートラル

社会とエネルギー安定供給の両立

に貢献していきます。



様々な機械システムを同調・協調させる標準プラットフォームであり、機械システムの最適運用を実現するデジタル・テクノロジーを集約した「ΣSynX (シグマシンクス)」。

「Σ=総和 \$Syn\$=同調・協調」 \$X\$=未来」を表すΣSynXには、「人を中心とし、人と協調できる技術を開発する」という想いを込めています。自動運転フォークリフトなど多様な製品へ拡大します。

社会システムの智能化“かしくく・つなぐ”

シグマシンクス



三菱重工グループが取り組んでいること

CO₂を排出しないクリーンな新交通システム



新交通システムの納入・保守を通じ、世界各国の交通輸送に係る環境課題の解決へと繋げ、カーボンニュートラル社会の実現に貢献します。

都市ごみ焼却発電プラント



一般家庭からのごみを焼却し、安全に処理するとともに、焼却熱を発電などに有効利用するための都市ごみ焼却発電プラントを手掛けています。

無人運転フォークリフトで物流現場の課題を解決



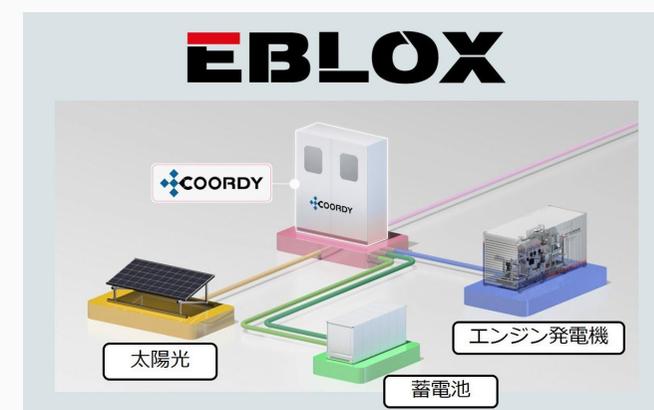
無人フォークリフトの開発を行うことにより、フォークリフトオペレーターの人手不足や増加・変動する荷物に対する保管スペースの確保といった社会課題を解決します。

アンモニア燃料実用化に貢献するVLGC



LPG燃料から、CO₂を排出しないアンモニア燃料に転換可能なVLGC (大型ガス運搬船) のコンセプト設計を完了しました。

再生可能エネルギーを最適に利用するシステム「EBLOX」



太陽光発電、蓄電池、エンジン発電機を組み合わせたトリプルハイブリッド自立給電システム「EBLOX」を開発。日本・トルコにデモプラントを設け、普及に向けた提案を行っています。

ヒートポンプ



ヒートポンプ技術で少ないCO₂排出量、省エネルギーの温熱供給を実現しています。また地球温暖化係数の低い冷媒を使用しています。

